

学 園

地方競馬益金事業

題 字 理事長 長野 士郎

平成 5 年 2 月 10 日 発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話 (0867)66-3651

FAX (0867)66-3652

だ よ り



学 園 の 近 況

校 長 雛 川 信 昭

構成県の皆様、学園関係者の皆様、そして、卒業生の皆様、御壮健にてそれぞれの分野で御活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、年も改まり平成も五年目を迎えまして、例年なら辺り一面厚い雪景色の蒜山の里も暖冬のせいか意外と黒い大地をのぞかせています。でも校舎から望む大山の雄姿、蒜山三座の山々には何時ものように、ガスに包まれ、また、まばゆいばかりの白銀の光を放っています。

ところで学園の近況について特徴的な出来事を一〇二報告させて戴きます。先ず学園の動向ですが、近年酪農家戸数が減少し、然も農業後継者等嫁問題が大きく社会問題になっていきます折、本校ではこれと裏腹に学生数が急増、なかでも非農家出身者と、女子学生が多く応募してきています。非農家出身者は全体の30

〜40%にも達し、女子学生は平成四年度、即ち第二十八期生は応募者三十二名中が十一名が（その後家庭の事情で二名中退）、また第二十九期生で願書受け三十五名中六名が女子学生となっています。

こうした中、一昨年は急遽女子寮を増築するなど嬉しい悲鳴に大わらわでした。酪農に全く経験のない、非農家出身者、女子学生達は、一様に動物が好き、牛は可愛い、自然と触れあいたい、と云うだけあって、きつい牧場作業にもくじけず、手足のかじかむ

厳寒の早朝にも愛牛に寄り添って搾乳に余念がありません。こうした女子学生の増加は学園の雰囲気ソフトムードで包み、お互いが切磋琢磨するに余りあるものです。将来は貴重な花嫁候補として多くの後継者から羨望の眼差を浴びることでしょう。

次に学園の備について申

し上げますと、本校が岡山県立酪農大学校として産ぶ声をあげたのは昭和三十六年、また財団法人、中国四国酪農大に改組されたのは昭和四十年、その間酪農業の伸展や、時代の要請に応え、常にユニークなもの、合理的なものへと、鋭意努力をしてきましたが、第二牧場の搾乳施設（ロータリーパーラー）の老朽化が激しくなってきましたので平成五年度に労働時間短縮等効果的、展示効果のある定置型パーラーにすることにしています。

その他本館も長い風雪に耐えてきましたので平成七年度に新築することとし、現在協議を進めています。蒜山と云う大自然のなか、学園の威厳を有し、然かも背景にマッチした、やすらぎの空間と、情緒をかもし出すための三角屋根、シンボルタワー、時計台を折り込むなど、よりユニ

クなものにするため、現在英知を絞っています。さらに、AVルーム、学生ホール、ハイテク実験室、乳肉加工施設も順次整備していくことにしています。

以上簡単に近況について報告しましたが、中国横断自動車道も、昨年12月18日に岡山県の落合から米子まで全線開通し、蒜山のSAではジャージーのヨーグルトがよく売れ製造に追われているとか、伺っています。蒜山はもはや僻陬ではなくなりました。蒜山の四季それぞれを楽しみながら、機会あるごとに来校いただき、近況をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。



教務課だより



実践に役立つ教育を目的として、

教育科目の充実をはかりながら、一方ではひらかれた酪農大として一般の方々の体験実習生やヘルパー研修生等の受入れを行い、酪農への理解と技術者の養成を行いました。

さらには本校の啓蒙をはかるためテレビ、ラジオ、新聞を通じてPR活動を推進しました。

卒業証書授与式

平成四年三月二十五日、第二十六期生の卒業証書授与式が多くのお客様をむかえ挙行され、酪農を担う若者十二名が本校を巣立っていきましました。

第二十八期生入学式

平成四年四月六日新たに酪農を学ぶ三十二名が入学しました。

内女子は十一名で開校以来の多数入学となりました。

県内若者とのふれあい

「燃えろ岡山・わかもの

ふるさとづくり畜産コース」

参加の女性十四名の体験学習を受け入れ、本校の学生と共に搾乳実習等を体験していただきました。

酪農ヘルパー専門技術員養成研修の実施

(社)酪農ヘルパー全国協会から派遣された研修生四名の短期研修を行いました。

削蹄師認定講習会並びに認定試験の実施

(社)日本装蹄師会主催の牛の削蹄講習会ならびに認定試験が十二月十五～十六日に開催され、一般受験者と共に受験し二十七期生全員が合格しました。

家畜人工授精及び受精卵移植講習会の開催

家畜人工授精は一月四日から、受精卵移植は一月二十五日から開催され、二十七期生が頑張つて受講しております。

特別講義の開催

学生の一般教養等知識の高揚をはかるため、各分野

で活躍されている方々を招いて、農業問題等多岐にわたる分野の講義を実施し、カリキュラムの一層の充実に努めました。

リクレーション等の開催

ソフトボール、ボーリング、バレーボール、スキー等の競技の開催。

蒜山地域のデイリー・ヤンガーとの親睦、女子学生の茶華道教室等を実施し、学生の余暇利用の充実をはかりました。

又華道は昨年に引続き、地域文化祭への出品を行い、地域の方々の賞賛を受けました。

乗用馬コーナーホース導入

導入が遅れていた馬について、(社)日本馬事協会から十二月二十四日、クリスマスプレゼントとして寄贈を受け、第二牧場で飼育しています。

現在パドックの整備を進めております。

第二牧場に看板完成

岡山県の御援助により、「中国四国酪農大」の看板が六月二十九日に完成しました。

修学旅行

第二十七期生が卒業式を前に最後の思い出として沖縄へ三月二日から三泊四日の旅行に行きます。

その他

報道機関の御協力によりテレビ、ラジオ、新聞を通して、学生の生活状況等を載せていただく等、本校のPR活動を積極的に推進しました。

来年度も沢山の入学希望があり、男子寮はいっぱいとなる予定です。

又女子も現在六人の入学予定があります。



第27期生校外研修班別課題報告

先進的酪農家での校外研修で個人の研修課題とは、別に本年度から各班で自主的に統一のテーマを決めて、研修牧場の実態を調査することとしました。「学園だより」を通じて先輩や関係者にこの調査の結果をご報告いたします。なお、今回の報告書作成は、各班の研修委員が中心となって取りまとめました。

課題名：高泌乳牛の飼料給与

について

一班 研修委員 山中 永礼 今出

一、調査対象農家：二二戸

(北海道から熊本県)

二、飼料給与の実態

a 粗飼料給与量

・現物給与量(kg)……

平均：二五・五

最大：三八・〇

最小：九・五

・主要粗飼料の内容……

サイレージ

(給与農家数：一三戸)

平均給与量：一四kg)

ヘイキューブ

(給与農家数：七戸)

平均給与量：三kg)

ルーサン乾草

(給与農家数：五戸)

平均給与量：二kg)

オーツヘイ

(給与農家数：二戸)

平均給与量：三kg)

*高泌乳牛を飼養している京

都のN牧場の給与例では、

ロールサイレージ一二kg、

ルーサン乾草四kg、その他

一kgでDMI量として九・四

kgを給与していた。

b 濃厚飼料給与量

・現物給与量(kg)……

平均：一〇・〇

最大：一六・〇

最小：四・五

・主要飼料の内容……

配給飼料

(給与農家数：一四戸)

平均給与量：九kg)

ビートパルプ

(給与農家数：一〇戸)

平均給与量：三kg)

綿実

(給与農家数：七戸)

平均給与量：二kg)

大豆粕

(給与農家数：六戸)

平均給与量：一kg)

三、飼料給与上の留意点

相対的に飼料給与は粗飼料

の摂取量を多くするとともに

給与回数を増やすなど泌乳量

に応じたDMIを満たすよう

な点が大半であった。

四、飼料給与の基準

ボディコンディション二戸
乳量 一二戸
ボディコンディション・
乳量 八戸

給与量を決めるのは多くは乳量だが、ボディコンディションと合わせて決定しているとの回答も多くあった。

五、繁殖管理の留意点

回答のあった農家のうち繁殖成績向上のためビタミンを投与しているものが目立ったが、なかにはミネラル、強肝剤、ホルモン剤などの投与、給与飼料の計算をしっかりとるなどの回答もあった。

〔まとめ〕

高泌乳牛とは現在では一般的に一万kgが基準となつてい
ると思われるが、調査牧場の
経産牛は基準を遙かに上回る
ものが多く見られた。また、
通常の飼料給与に比べ粗飼料
(繊維)の量、内容に注意し、
乳量に応じた飼料全体の給与
に配慮されているように感じ
られた。ボディコンディション、
繁殖管理は乳量に応じた
飼料給与を正確に行うこと
により適切な結果が得られる
という意識が、多くの経営者か

ら感じられた。
まとめとして高泌乳牛の飼
育のポイントは的確な飼料給
与にあると思われる。

飼養頭数 (経産牛頭数)	牧場内最高泌乳牛 1頭当り乳量	乳成分 (脂肪率)	乳成分 (無脂固形)	牛群検定 実施率
平均：83頭	平均：11,000kg	平均：3.82%	平均：8.74%	82%
最大：312	最大：15,000	最大：4.0	最大：8.8	
最小：11	最小：7,500	最小：3.5	最小：8.07	

課題名：先進酪農家の乳牛改良に 対する意識調査について

二班 研修委員 佐々木 上田 宮地

調査対象農家：二二戸

(北海道から大分県)

平均飼養規模：経産牛六三頭

I 調査項目とその回答について

1 酪農経営の改善に

する改良（自家育成牛）のウエイトについて経営の八〇%をしめるとの回答が多くあった。内容は、能力に注目して、特に乳質の改良に取り組むという回答が五割、連産性を高めるが三割になっていた。

2 後継牛を残したい母牛

は飼養経産牛の約五〇%であり、その選抜基準としてのもっとも重視しているのは乳量であった。中には、初産時の三〇五日実乳量が八、〇〇〇kg以下を淘汰の基準として保留するという農家もあった。

3 搾乳牛の廃用の基準は、

四割が乳量・乳質、二割が繁殖成績、その他三割が事故などによるものとの回答があった。

4 精液を選定する基準は、

第一に乳成分、乳量、体型の順番になり欠点を補うように選択するという回答が多かった。その情報については、家畜改良事業団のブルブックが主なもので、輸入精液についてはサイアーサマリーや、ジャージージャーナルのブルブックが活用されていた。

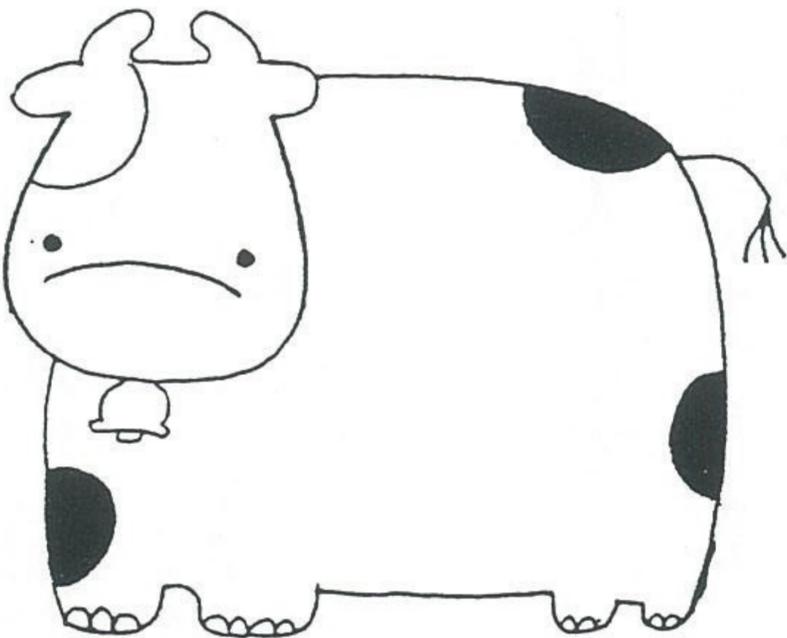
5 育成牛の飼養管理では、

第一胃の発育を促進させるために早期離乳、良質な粗飼料の給与という回答がほとんどであった。育成牛を購入すると回答のあった牧場（対象農家の五割）の多くは体型を重視していた。その他、

II まとめ

母の能力、発育の程度等も注目していた。ただ、北海道の農家は購入しないうという回答が大半であった。

酪農経営の改善において牛群改良は大きな鍵であるという意識が強く感じられた。また、牛乳取引の基準により改良の目標は乳質が第一となっていたのが注目される点である。そのため育成牛頭数も多く、選抜の基準も厳しいものが設定されており、改良速度の向上を図ろうとする点に力がいれられているように推察されるなど、酪農経営の改善を進める先進的な酪農家の意識が感じられた。



学生だより

みなさんのおかげです

第二七期生 茨城県 中川 誠

本校に入学するまで私は、酪農のことについて何も知りませんでした。ただ動物が好きで、将来自分で牧場経営をしたいと思って、不安半分夢半分で入学しました。

入学してから一年と九カ月、いろいろなことを学び、経験して来ました。

入学したばかりのときには、体力がもつだろうかとか、朝早くからの作業など辛いこともあり不安でしたが、一年生のときの作業や二年生のときの校外研修など、一年半やってきた今では体力も付き、作業も辛いと思うことはなくなりました。

二年生のときの六カ月間の校外研修では、北海道、山梨県、熊本県で研修をし、初めて学校以外での本場の酪農を体験し、酪農の厳しさを改めて実感させられた反面、より

朝から晩まで約一年半、説教されるとき、ほめられるとき、夜遅くまで酒を飲むときや遊ぶとき、テスト勉強をするとき、風呂に入るときも一緒、ときには二人部屋なのに四、五人で寝たこともありました。良い中間たちに出会えて本当によかったと思います。

私は卒業した後も、本校で学んだこと、27期の仲間たちから得たいろいろなことをいかして酪農に携わっていきたいと思いますので27期の皆も卒業後、がんばって下さい。

職員の皆様、27期の仲間たち、そして牛さんたち、楽しい二年間をありがとうございました。

動物好きの菅生君。作業を一生けんめいする竹内さん。いつもニコニコ笑っていた高田君。音楽をいつも聞いていた田中君。ギターをひくのが上手だった壇上君。

二七期のみんなへ

第二七期生 群馬県 佐々木章成

いつも元気でスポーツの得意な今出君。トラクターに乗るのが上手だった上田君。27期の人気者でいつもみんなを笑わせていた大隅君。とてもやさしかった片山君。テストでいつも一番だった小泉さん。

みんなのリーダー的存在だったおやっさん(中川君)。エンジンのついていていものならなんでもすきな永礼君。作業がとても早かった林君。足がすごく速かった福田君。ワープロをうつのが上手だった宮地君。みんなにかわいがられていた山口君。ゲームとサッカーがとても

「酪農大学校に入学して」

第二八期生 大阪府 荒木健吾

私が、入学して早や一〇カ月が過ぎました。私の高校は、普通科であり、酪農の事など何もわからないで入学し、自分の中では不安でいっぱいでした。これからの二年間、本当に自分がやっていけるのか？酪大に入学して意味があるのか？などいろいろありました。がやるしかないと思えました。最初の頃は、実習が思った以上にきつく体力的にも精神的にも疲れてしまいましたが、同期の友達のはげましや、先輩の良き指導で今までやっていくことができました。そして、酪大は実習もさるこ

好きだった山中君。それから途中で学校をやめてしまった高村君、横山君、斎藤君。この学校に入学して、みんなに会えてとても良かったです。卒業まであともう少しですがみんなの良い思い出をつくりましょう。

とながら講義の時間数もたくさんありました。講義も今の現在の酪農の状況を考えた、実践的なものでありました。講義以外にも実習などで先生方と話す機会がたくさんあるので講義などでは聞くことのできない酪農家の本場の意見を聞いてきた先生の話しや、先生方が実際に経験した酪農に関する話それ以外でも今の世界の状況や日本の今の状況を話したりすることで先生とのコミュニケーションは、他の学校よりたくさんあると思います。これから諸先生や、同期生、先輩方いろいろな人

にささえられて頑張って自分の道を作ろうと考えています。来春には多くの新入生が入ってくると思います。分も先輩方を手本にして良き先輩になりたいと思います。



特 別 講 義

「牛を慈しみそして、牛からも慕われる様な酪農家を目指して」

第二八期生 岡山県 服部厚子

ある日、服部牧場の幼いオチビさんが、「お父さんとお母さんみたいな牛飼いになりたい」と幼心にも酪農家の卵

としての道を進みたいと夢を抱きました。そして現在、将来の酪農を支える立派な歯車の一つになりたいと地元が蒜山という事もあって本校へ入学を希望しました。入学後は、講義と実習の二本立てによる実践的な教育方針で、入学前では予想も尽かかなかった多種多様な作業が待ち受けており、これからの酪農家は全てにおいて、オールマイティではないといけないのかとつくづく考えさせられました。又、寮生活においては、寮長をさせて頂いており、一つの集団をまとめる事の難しさも教えられ、色々な面で大変勉強になっていきます。さて、「今日の酪農はとても厳しい情勢で」というのが当然の様に謳い文句になっている酪農機関誌、どれを捲ってみても明るい話題は見当たらなかった時、各種の報道機関で、「酪大に女子学生十一人も入学」という明るい話題が流れました。これは大変頼もしい事で、乳質改善の為の牛舎の環境整備など女性ならではの繊細な部分で消費者に高品質で安全な牛乳を生産していますという事。又、酪農

のVwゆるる3Kなどのイメージを改善し、「食品を扱っている大切な職業」という意識をどんどんアピールして行きたいです。最後に、幼ない頃から現在、そして未来へ「牛飼いがやる」としての私の夢は更に広がりつつあります。



生殖器解剖実習



卒業生の皆様には、お元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。

平成四年度の第一牧場は、河原場長（一年目）と江田技師（四年目）に、卒業生の皆様にお馴染みの樋口助手の三人で、哺乳、育成、搾乳、肥育、さらには大型トラクターを使用した機械演習など、多くの技術が実習できるように努力してきました。また、昨年度に導入した受精卵移植用の和牛二頭（採卵用）を蒜山地区の共進会に出品するなど、これまでに経験のない分野にも挑戦しています。

さて今年の成果として、一番大きいのは記録的な生乳生産量の伸びです。さらに昨年

導入したロールベラーとラッピングマシンをフルに活用して、年間三百九十一個のロールベールサイレージを調整し、飼料効果や乳飼比を大幅にアップさせたことがあげられます。またトウモロコシの栽培においても、生育初期の苗立枯病による被害を手で追播して挽回し、例年以上のサイレージ収量をあげたことも、飼料効果や乳飼比の改善に効果がありました。この成果の陰には、すでに稼働時間が三千時間を越えている、マッセイファーガソン社製のトラクターの活躍を忘れることはできません。

しかし、ここ数年雌子牛の出生率が低いため後継牛が確

保できていないことと、生乳生産量の急激な伸びのために繁殖成績が低下したことによる、平成五年度の生乳生産量の低下が心配されています。

生乳生産量や経産牛一頭当りの乳量、乳質、飼料効果、乳飼比などについて、過去三年間の状況は表一のとおりです。今年度は、補正乳量一万kg以上の牛も六頭になりました。

今年の蒜山は例年にないほどの暖冬で、正月にも牧場周辺には雪もなく、非常に過ごし易い新年を迎えることが出来ました。

卒業生の皆様も、第一牧場にぜひおいでいただきたいと思えます。思い出深い搾乳牛舎とトラクター、そして新築の乳肉複合経営実証モデル牛舎がお待ちしております。

飼養頭数

平成5年1月1日現在

区 分	頭 数
経 産 牛	41
未経産牛 (19カ月以上)	3
育 成 牛	12
乳 用 牛 計	56
肥 育 牛	78
繁 殖 和 牛	2
肉 用 牛 計	80
合 計	136

表1 生乳生産状況

	元 年 度	2 年 度	3 年 度	4 年 度 (12月末)
1日平均搾乳牛頭数 (頭)	29.6	33.8	32.5	32.5
1日1頭当り搾乳量 (kg)	20.1	21.0	20.3	23.8
年間生産乳量 (kg)	216,744.4	259,542.7	240,563.2	(212,731.2)
乳 脂 率 (%)	3.50	3.61	3.86	3.52
無脂固形分率 (%)	8.84	8.83	8.81	8.65
細 胞 数 (万/ml)	16.2	21.2	13.5	23.8
細 菌 数 (万/ml)	2.71	1.25	0.63	0.83
飼 料 効 果	1.9	1.9	2.1	2.4
乳 飼 比	23	26	22	19



第一牧場とロールベールサイレージ



今年も昨年同様暖冬といわれ過ぎしやすい蒜山の日々を送っております。皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

本年度第二牧場では、中村技師が真庭家畜保健衛生所に転勤になり、かわりに山田技師が畜産総合センターより配属になりました。

三牧さんには、平成二年度において退職されたものの引き続き勤務していただいております。平成四年度は、過去二ヶ年続いた大型台風の影響もなく、粗飼料生産も、品質、量ともに順調に収穫できました。

おかげさまで、生産乳量も順調に伸びてきており、個体につきましても七、〇〇〇kg

級の牛が徐々に増えてきて一同よろこんでいるところです。

これからも、飼料とか、管理方法等についてみんなで協議改善を重ね、より以上の目標に向けて努力したいと思っております。

平成五年度には、事務所前の県道が拡幅され、自転車道、遊歩道があわせて整備されるにともない、車庫、倉庫、職員公舎二棟を撤去し事務所側に新築することになっております。又、道路拡幅とあわせて事務所前から国民休暇村入口の県道嵩上げを行ない、左カーブのところを牛道のトンネルが設置されます。

将来的には乾乳牛舎、育成牛舎を事務所側に新築したい

と思っております。(そのための牛道設置)ロータリーパーラが老朽化しておりますので、建物はそのままとして、オートタンDEMパーラを計画しております。

まだ、計画の段階なのですが、チョットお話ししますと、平成七年には酪大創立三〇周年、蒜山にジャージーが導入されて四〇周年、あわせて記念事業を地域、卒業生の皆様方とともに取り組んでハズミをつけたいと思っております。

乾乳牛舎、育成牛舎を撤去した跡地は地域とともに有効的な活用方法を検討中です。(ジャージーとのふれ合いの場……)

なにはともあれ、建物等の整備、記念事業等につきましては、皆様方の大なるお力添えをお願いしたいものです。

第二牧場周辺環境整備も段々と整備できたので、今年度からは乳量、乳質に力をおき一同精進するつもりです。

以上第二牧場の近況報告といたします。

職員紹介

校長 松田 忠博

副校長 森岡 章洋

主任 津田 清子

(教育部)

部長 山形 幹夫

教務課長 谷田 重遠

運転技術員 池田 富幸

調理 〃 道祖 夕力

臨時(常勤) 西田 良子

(第一牧場)

技師長 河原 宏一

技師 江田 泰一

助手 樋口 照夫

(第二牧場)

技師長 山越 志郎

技師 藤原 徹夫

助 手 磯野 俊英

助 手 有富 勝仁

臨時(常勤) 三牧 孝徳



フラワーロードと第二牧場